

フランス語基本動詞の活用の学び方

－中級学習者のために－ (2)

三 上 純 子

I. はじめに

動詞活用に習熟することは、フランス語の運用能力を身につけるためには、きわめて重要である。しかし現実には、初学者が活用表だけを頼りに動詞活用に取り組むのは難しく、そのため十分な学習効果が上がっていないのが実情であろう。そこでわれわれは、基本動詞の活用克服をめざす中級学習者にとって道標となるような実際的な原則を示せないか、と考えた。このような立場から、昨年度の紀要に掲載した「フランス語基本動詞の活用の学び方－中級学習者のために－ (1)」では、不定詞から「直説法現在」の活用パターンを作る方法を説明した。本稿では、その続編として、不定詞から「過去分詞」、「直説法単純過去」、「直説法単純未来」を作る方法を提示したい。

今回も、われわれにとって最も参考になったのは、『ディコ仏和辞典』(白水社)に付せられた、一戸とおる氏による「動詞活用の体系」という解説である。「直説法現在」の場合と同じく、われわれの主な改良点は、対象とする動詞を中級学習者が優先的に覚える方が望ましいと思われる使用頻度の高い動詞に限ったこと、及び原則に依拠した活用の作り方のモデルを個々の動詞パターンについて示したこと、である。

繰り返しになるが、初めて読まれる方のために、ここで扱った基本動詞の選定について説明しておきたい。動詞の絞り込みには『ディコ仏和辞典』(白水社)と『プチ・ロワイヤル仏和辞典 (第3版)』で行われている3段階の重要語指

定を活用し、この両者のどちらかに重要語の印が付されているものを対象とした。動詞の総数は900余りである¹⁾。これらの動詞は63²⁾のタイプに分類したが、その順番は概ね『ディコ仏和辞典』の活用表にならった。ただし、avoir、être、finir等の分類番号を変更したことにより、番号そのものにはずれが生じている。また、『ディコ仏和辞典』の活用表にはあるが基本動詞にはないパターンを除外したり、分類番号をまとめた場合もあるので、パターンの総数は減少している。

なお、前記論文にも述べたように、この試みで提示される原則は、あくまでも学習を助けるための実践的な原則であり、語形成に関わる学問的な解釈ではないことを、もう一度お断りしておく。

II. 用語と補足規則

1. 特殊用語

本稿で用いる特殊な用語については以下のように定義する。

- ・弱音節：[ə]または[-]のeを含む綴り字上の音節
- ・不定詞語幹：不定詞から -er、-ir、-oir、-re（不定詞語尾）を除いたもの
（注）[7b][8][9]では、語幹末のyをiに変えたものが不定詞語幹となる（補足規則5）参照）。
- ・V型：-oir動詞のうち、<母音字（群）+ voir>で終わるもの
（注）voirとその合成語はこれに含まれない。
- ・非V型：V型以外の-oir動詞
- ・子音幹型：-re動詞のうち、不定詞語幹が子音で終わるもの
- ・I幹型：-re動詞のうち、不定詞語幹が[i]で終わるもの
- ・非I幹型：-re動詞のうち、不定詞語幹が[i]以外の母音で終わるもの

2. 語幹末に関する補足規則

- 1) 弱音節が連続することは忌避される。
- 2) [s]と発音すべきcは直後がa、o、uのときはçと綴る。

- 3) [k]と発音すべきcは直後が母音字のときはquと綴る。
 4) [ʒ]と発音すべきgは直後がa、oのときはgeと綴る。
 5) 直後が発音される母音字のときはiをyに変える。ai→ay、oi→oy、
 ui→uy

III. 基本動詞の過去分詞・直説法単純過去の作り方

1. 過去分詞の語幹と語尾

語幹

- ・-er動詞、-ir動詞、-oir動詞非V型、-re動詞子音幹型：不定詞語幹
- ・-oir動詞V型：不定詞から末尾の<母音字(群) + voir>を除いたもの
- ・-re動詞I幹型・非I幹型：不定詞語幹から末尾の母音字(群)を除いたもの

語尾

- ・-er動詞： -é
- ・-ir動詞、-re動詞I幹型： -i
- ・-oir動詞、-re動詞子音幹型・非I幹型： -u

2. 直説法単純過去の作り方

語幹：過去分詞語幹

語尾

- ・過去分詞の語尾がé：-ai, -as, -a, -âmes, -âtes, -èrent (a型)
 - ・過去分詞の語尾がi：-is, -is, -it, -îmes, -îtes, -irent (i型)
 - ・[19]： -ins, -ins, -int, -înmes, -întes, -inrent (in型)
 - ・過去分詞の語尾がu：-us, -us, -ut, -ûmes, -ûtes, -urent (u型)
- ただし、-re動詞子音幹型については、単純過去語尾はi型

3. 過去分詞・直説法単純過去(三人称単数)の実例

以下の矢印で示した変化は、上記の原則を踏まえて過去分詞・直説法単純過去(三人称単数)の形成の作業仮説を示したものである。太字は上記の原則か

らはずれるものを表している。これらについては、何に関する例外かを示せる場合は注記する。

-er 動詞

[1] aim-er :	aim-é	→ aim-a
[2] commenc-er :	commenc-é	→ commenc-a (commença), commenc-èrent 補2)
[3] mang-er :	mang-é	→ mang-a (mangea), mang-èrent 補4)
[4] préfér-er :	préfér-é	→ préfér-a
[5] lev-er :	lev-é	→ lev-a
[6] appel-er :	appel-é	→ appel-a
[7a] pay-er :	pay-é	→ pay-a
[7b] pai-er :	pai-é (payé)	→ paya 補5)
[8] emploi-er :	emploi-é (employé)	→ employa 補5)
[9] envoi-er :	envoi-é (envoyé)	→ envoya 補5)
[10] all-er :	all-é	→ all-a

-ir 動詞

[11] fin-ir :	fin-i	→ fin-it
[12] ha-ir :	ha-ï	→ ha-ït
[13] fu-ir :	fu-i	→ fu-it
[14] cueill-ir :	cueill-i	→ cueill-it
[15] ouvr-ir :	ouver-t	→ ouvr-it
[16] cour-ir :	cour- u	→ cour-ut
[17] mour-ir :	mor-t	→ mour-ut
[18] acquér-ir :	acqu-is	→ acqu-it
[19] ven-ir :	ven- u	→ v-int
[20] sort-ir :	sort-i	→ sort-it
[21] faill-ir :	faill-i	→ faill-it

-oir 動詞非V型

[22] prév-oir :	prév-u	→	prév-ut
[23] v-oir :	v-u	→	v-it
[24] asse-oir :	ass-is	→	ass-it
[25] fall-oir :	fall-u	→	fall-ut
[26] val-oir :	val-u	→	val-ut
[27] voul-oir :	voul-u	→	voul-ut

-oir 動詞V型

[28] p-ouvoir :	p-u	→	p-ut
[29] ém-ouvoir :	ém-u	→	ém-ut
[30] rec-evoir :	rec-u (reçu)	→	rec-ut (reçut) 補2)
[31] d-evoir :	d-u (dû)	→	d-ut

(アクセント・グループは過去分詞の男性単数形のみ)

[32] pl-eouvoir :	pl-u	→	pl-ut
[33] s-avoir	s-u	→	s-ut
[34] -avoir :	-u (eu)	→	eut (語尾の前に無音のeが付加)

-re 動詞子音幹型

[35] suiv-re :	suviv- i	→	suviv-it
[36] viv-re :	véc-u	→	véc-ut
[37] romp-re :	romp-u	→	romp-it
[38] batt-re :	batt-u	→	batt-it
[39] mett-re :	m-is	→	m-it
[40] vainc-re :	vainc-u	→	vain qu -it 補3)
[41] rend-re :	rend-u	→	rend-it
[42] coud-re :	cous-u	→	cous-it
[43] résoud-re :	résol-u	→	résol-ut
[44] prend-re :	pr-is	→	pr-it
[45] craind-re :	crain-t	→	craign-it
[46] connaît-re :	conn-u	→	conn-ut

[47] naît-re :	n-é	→ naqu-it
[48] êt-re :	ét-é	→ f-ut

-re 動詞I 幹型

[49] nu-ire :	nu-i	→ nuis-it
[50] condu-ire :	condu-it	→ conduis-it
[51] suff-ire :	suff-i	→ suff-it
[52] l-ire :	l-u	→ l-ut
[53] interd-ire :	interd-it	→ interd-it
[54] d-ire :	d-it	→ d-it
[58] écr-ire :	écr-it	→ écriv-it
[62] r-ire :	r-i	→ r-it

-re 動詞非I 幹型

[55] f-aire :	f-ait	→ f-it
[56] t-aire :	t-u	→ t-ut
[57] pl-aire :	pl-u	→ pl-ut
[61] distr-aire :	distr- ait	
[59] b-oire :	b-u	→ b-ut
[60] cr-oire :	cr-u	→ cr-ut
[63] concl-ure :	concl-u	→ concl-ut

4. 活用パターンについての補足

実例及び分類表について、いくつか指摘できる点を補足しておきたい。

過去分詞の覚え方としては、まず各不定詞パターンの原則を頭に入れる必要がある。われわれが基本動詞とした64タイプの動詞のうち、45がこの原則に当てはまる。残る19が不規則なものであるが、不規則な過去分詞を多く持つ不定詞パターンは、-ir動詞（不規則5）と-re動詞子音幹型（不規則10）である。言い換えれば、例外なしの-er動詞を別にしても、-oir動詞、-re動詞I幹型・非I幹型は原則の適用性が高いと言える。

過去分詞分類表

語尾		不定詞パターン											
		-er 動詞 : é		-ir 動詞 : i		-oir 動詞非V型 : u		-re 動詞子音幹型 : u		-re 動詞I幹型 : i		-re 動詞非I幹型 : u	
		語幹規則	不規則	語幹規則	不規則	語幹規則	不規則	語幹規則	不規則	語幹規則	不規則	語幹規則	不規則
é		1.aimer 2.commencer 3.manger 4.préférer 5.lever 6.appeler 7a.payer 7b.payer 8.employer 9.envoyer 10.aller								47.naître (né) 48.être (été)			
i (is, it を含む)				11.finir 12.hair (acquis) 13.fuir 14.cueillir 20.sortir 21.fallir	18.acquérir (assis)	24.asseoir (assis)	35.suivre	39.mettre (mis) 44.prendre (pris)	49.nuire 51.suffire 62.rire 50.conduire (conduit) 53.interdire (interdit) 54.dire (dit) 58.écrire (écrit)				
u				16.courir 19.venir	22.prévoir 23.voir 25.falloir 26.valoir 27.vouloir	28.pouvoir 29.émouvoir 30.recevoir (reçu) 31.devoir (dû) 32.pleuvoir 33.savoir 34.avoir (eu)	37.rompre 38.battre 40.vaincre 41.rendre	36.vivre (vécu) 42.coudre (cousu) 43.résoudre (résolu) 46.connaître (connu)	52.lire 56.taire 57.plaire 59.boire 60.croire 63.conclure				
不規則				15.ouvrir (ouvert) 17.mourir (mort)				45.craindre (craint)	55.faire (fait) 61.distraire (distrain)				

実際に不規則な過去分詞を覚える際には、語幹は原則通りで、語尾のみ原則からはずれる、16.courir、19.venir、35.suivre、52.lireを先に覚える方が効率がよいと思われる。ただし、過去分詞の語尾はé、i (iの変形としてのis、itを含む)、u及び不規則のtしかないので、前頁の表を参照しながら、語尾パターン別に、例えば-éの例外として、47.naître、48.êtreを覚えるという方法もあろう。いずれにしても、不規則なものは表の中にまとまって現れるので、この表は視覚的にも記憶の助けになるだろう。

過去分詞と単純過去の対応の方では、64タイプの動詞のうち、原則通りのものが49である。例外15のうち、単純過去を持たない61.distraireを除く、残りの14の動詞については、語幹の変化のない、36.vivre、43.résoudre、46.connaître、23.voirと語幹が変化する49.nuire、50.conduire、58.écrire (この三つは語幹に子音字が付加されるという共通点を持つ)、19.venir、15.ouvrir、17.mourir、47.naître、48.être、45.craindre、55.faireに大別される。不定詞パターンで見ると、不規則が多いのはここでも -re動詞子音幹型で、47、48、36、43、46、45の6動詞がこのパターンに属する。また、単純過去が不規則になる動詞も、過去分詞の分類表のいくつかの欄にまとまっている。それぞれの過去分詞語尾に対する単純過去の例外という形で覚えてゆくのが、効率的だろう。

なお、単純過去の原則のところでは、-re動詞子音幹型については、単純過去の語尾をuではなくiとした。これは、われわれの分類で-re動詞子音幹型に入る65の動詞のうち55が語尾i型をとることによる。以下に参考までに、不定詞パターンと過去分詞・単純過去の語尾の対応を示しておく。

過去分詞と単純過去の語尾の対応

	過去分詞	単純過去
・-er動詞：	-é	a型
・-ir動詞、-re動詞I幹型：	-i	i型(in型)
・-re動詞子音幹型：	-u	i型
・-oir動詞、-re動詞非I幹型：	-u	u型

IV. 基本動詞の直説法単純未来の作り方

1. 直説法単純未来の語幹と語尾

語幹

- ・ -oir 動詞 V 型：不定詞語幹
- ・ それ以外の動詞：不定詞から末尾の r (e) を除いたもの

語尾：-rai, -ras, -ra, -rons, -rez, -ront

2. 単純未来語幹の実例

-er 動詞

- | | | |
|------------------|--------------|---------------|
| [1] aime-r : | aime | |
| [2] commence-r : | commence | |
| [3] mange-r : | mange | |
| [4] préfère-r : | préfère | |
| [5] leve-r : | leve | → lève 補1) |
| [6] appele-r : | appele | → appelle 補1) |
| [7a] paye-r : | paye | |
| [7b] pai-e-r : | paie | |
| [8] emploi-e-r : | emploie | |
| [9] envoi-e-r : | enver | |
| [10] alle-r : | i | |

-ir 動詞

- | | |
|------------------|----------------|
| [11] fini-r : | fini |
| [12] haï-r : | haï |
| [13] fui-r : | fui |
| [14] cueilli-r : | cueille |
| [15] ouvri-r : | ouvri |
| [16] couri-r : | cour |
| [17] mouri-r : | mour |

[18] acquéri-r :	acqu er
[19] veni-r :	viend
[20] sorti-r :	sorti
[21] failli-r :	failli

-oir 動詞非V型

[22] prévoi-r :	prévoi
[23] voi-r :	ver
[24a] asseoi-r :	assié
[24b] asseoi-r :	asso i
[25] fallo-i-r :	faud
[26] valoi-r :	vaud
[27] vouloi-r :	voud

-oir 動詞V型

[28] pouv-oir :	pour
[29] émouv-oir :	émouv
[30] recev-oir :	recev 補1) の例外
[31] dev-oir :	dev
[32] pleuv-oir :	pleuv
[33] sav-oir :	sau
[34] av-oir :	au

-re 動詞子音幹型

[35] suiv-re :	souv
[36] viv-re :	viv
[37] romp-re :	romp
[38] batt-re :	batt
[39] mett-re :	mett
[40] vainc-re :	vainc
[41] rend-re :	rend

[42] coud-re :	coud
[43] résoud-re :	résoud
[44] prend-re :	prend
[45] craind-re :	craind
[46] connaît-re :	connaît
[47] naît-re :	naît
[48] êt-re :	se

-re 動詞 | 幹型 / 非 | 幹型

[49] nui-re :	nui
[50] condui-re :	condui
[51] suffi-re :	suffi
[52] li-re :	li
[53] interdi-re :	interdi
[54] di-re :	di
[55] fai-re :	fe
[56] tai-re :	tai
[57] plai-re :	plai
[58] écri-re :	écri
[59] boi-re :	boi
[60] croi-re :	croi
[61] distrai-re :	distrai
[62] ri-re :	ri
[63] conclu-re :	conclu

3. 作り方についての補足

われわれの原則によれば、補足規則が適用されるものを除くと、65の動詞のうち47が原則通り、不規則なものは18である。不定詞パターンを見ると、-er動詞では9.envoyer、10.allerが、-re動詞では48.être、55.faireが不規則である。-ir動詞には不規則が5タイプあるが、14.cueillir、16.courir、17.mourir、

18.acquérir、19.venir のうち、16、17、18については語幹末母音*i*の脱落という特徴が指摘できる。また、-oir動詞V型の不規則な3動詞、28.pouvoir、33.savoir、34.avoirには、語幹末子音*v*の変化という共通点が見られる。最も不規則が多いのは、-oir動詞非V型で、不規則な6タイプは23.voir、24a.asseoir、24b.asseoir、25.falloir、26.valoir、27.vouloirである。

上記の不規則18タイプのうち、基本動詞に同型の動詞を多く持つのは19.venirで、venir、tenirに接頭語を加えた動詞をあわせて総数18である。それ以外では、9.envoyer、14.cueillir、16.courir、23.voir、55.faireがそれぞれ数個の同型動詞を持つほかは、単独例である。ここに挙げた不規則タイプのうち、半数程度は初級段階で単純未来の語幹を覚える重要動詞でもあり、全部を覚えるのはそう難しいことではあるまい。

V. おわりに

今回扱った、「過去分詞」、「直説法単純過去」、「直説法単純未来」については、今まで見てきたように、不規則なタイプの基本動詞の数は限られている。したがって、ここで立てたような原則を持ち出すまでもなく、すべて例外として丸覚えする方がよいというタイプの学習者もいるだろう。ただ、「過去分詞」については、そうした学習者にとっても、全体を俯瞰できる上記の分類表が記憶の助けになるのではないかと思う。

フランス語の動詞活用は、直説法現在から命令法現在、現在分詞、直説法半過去、接続法現在が、過去分詞から直説法単純過去、接続法半過去が、直説法単純未来から条件法現在が作られるので、われわれの示した方法により、不定詞から「直説法現在」、「過去分詞」、「直説法単純未来」を作ることができれば、すべての動詞活用を導き出せる³⁾。基本となるこれら三つの形のうち、不規則なタイプの割合が高いのは「直説法現在」である。動詞活用に習熟するためには、まず第一に、「直説法現在」の作り方を原則に則り効率的に覚えることが肝要である。

学習者向けの辞書に付せられたものの他にも、動詞活用表は何種類も出版さ

れている。しかし、活用表によっては説明があまりに学問的で、今日の学習者には近づきにくいものもあるように思われる。われわれが提示した活用の学び方では、学びやすさに焦点を絞り、もっぱら実用的な観点から、原則の単純化を心がけたつもりである。

この方法を使った実際の学習指導効果については、稿を改めてご報告したい。

注

- 1) 紙幅の関係もあり、本稿では対象としたすべての動詞の活用分類は提示しない。
- 2) 63の分類番号はすべての法と時制を勘案して付した。なお、[7]と[24]はaとb、2種類の活用形を持つので活用形の総数は65となる。
- 3) 『プチ・ロワイヤル仏和辞典』のpp. 1692-1693のまとめは学習者にとってもわかりやすい。

参考文献

『ディコ仏和辞典』, 白水社, 2003.

『プチ・ロワイヤル仏和辞典 (第3版)』, 旺文社, 2003.

荒木昭太郎他編: 『わかりやすいフランス語動詞の活用 新訂版』, 大修館書店, 1982.

川村克己他編: 『フランス語動詞活用表』, 駿河台出版社, 2001 (改訂第29刷) .

京都大学フランス語教室: 『実習フランス語教程 - 初級から中級まで -』, 白水社, 1987.

窪川英水: 『フランス語動詞活用ハンドブック』, 第三書房, 2003 (第14刷) .

田島清編: 『改訂標準フランス語動詞変化表』, 白水社, 2003 (改訂第30刷) .

立花英裕・渡辺隆司: 『SophieとNicolasのフランス語文法』, 伸興通商, 1997 (第3刷) .

福井芳男他編: 『フランス語動詞変化の仕組み』, 芸林書房, 1989 (第6刷) .

三宅徳嘉・河村正夫: 『フランス語動詞の活用』, 大修館書店, 1978 (第6版) .

渡辺隆司: 「フランス語動詞活用教授法について」, 『フランス語教育』 23, 1995, pp.42-51.